



2021年12月期 決算説明会

2022年3月11日
市光工業株式会社

VISION IN MOTION



目次

- ① 2021年12期決算概要(2021年1月~12月)
- ② 2022年12月期業績見通し(2022年1月~12月)
- ③ 新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書

MISSIONS

- **より環境に優しく、より安全で、より高性能な**自動車社会のために革新的で高品質な製品を提供し、顧客にとって最高のパートナーとなります。
- 市光の「**日本流**」の経験を生かし、国内OEMとともに*VLSの事業展開をリードします。
- 高度な開発、プロジェクト管理、生産の立ち上げの成功を確保するため、国内OEMとVLSとの間の**インターフェース**としての職務を果たします。
- 技術と革新をリードするヴァレオの方針を浸透、適合させることにより、**技術的な躍進**を通じて国内OEMとの新しいビジネスチャンスを生み出します。
- 財務実績、交渉の余地のない**コンプライアンス**や**倫理、社会的責任、カーボンニュートラル**を継続的に向上させ、株主様にとっての企業価値を高めます。

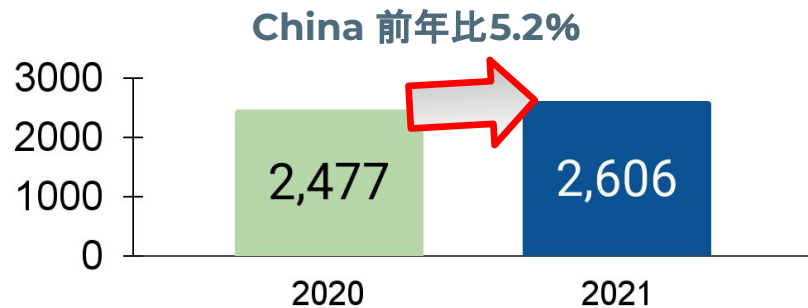
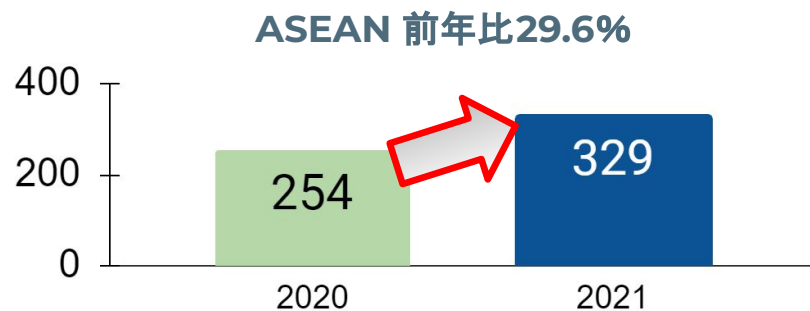
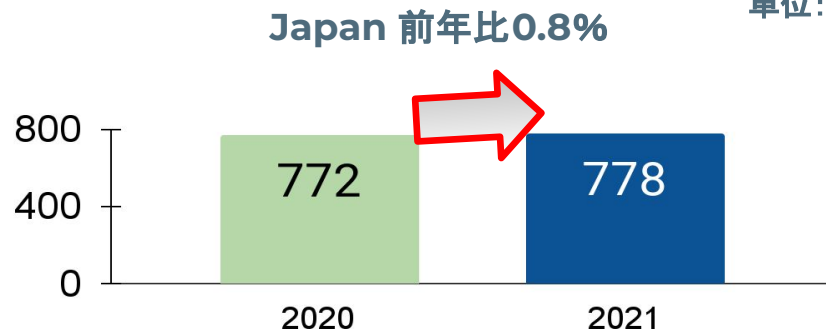
(*): VLS = ヴアレオ・ライティング・システムズ

01 2021年12月期決算概要 (2021年1月～12月)

マーケット生産台数と当社売上高 前年同期比較 (マーケットは速報ベース)

マーケット生産台数 (出展: LMC Automotive)

単位:万台



当社売上高VSマーケット生産台数

対前年同期比較

	当社 売上高	マーケット 生産台数	Outperformance
Japan	5.8%	0.8%	5.0ポイント
ASEAN	41.2%	29.6%	11.6ポイント
China	21.6%	5.2%	16.4ポイント

ASEAN: Malaysia, Indonesia, Thailand

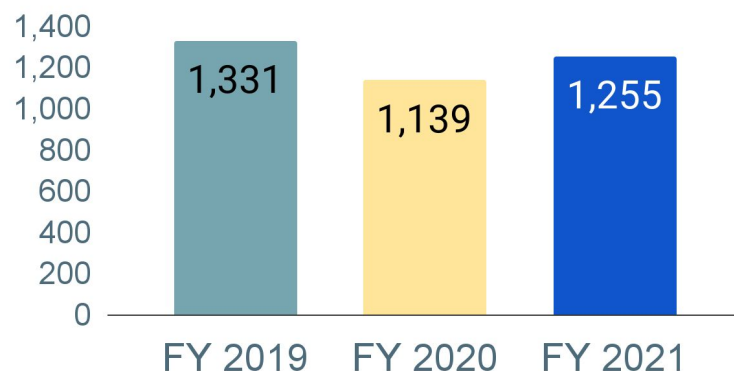
2021年12月期 連結業績概要(対前年、一昨年比較)

- ◆ コロナ禍の反動により、対前年比では大幅な増収増益
- ◆ コロナ前の2019年比では、売上利益ともに回復に至らない

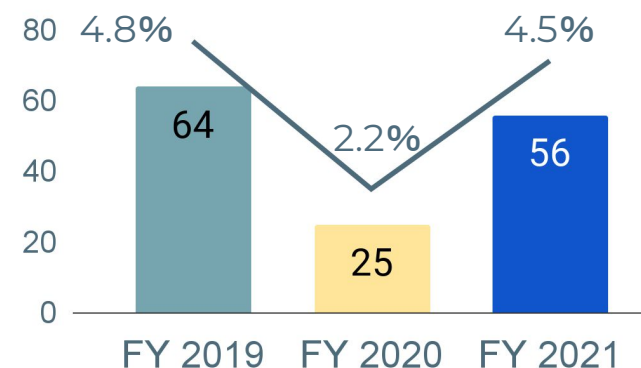
単位:億円/四捨五入

	FY 2019 (2019年1~12月)	FY 2020 (2020年1~12月)	FY 2021 (2021年1~12月)	増減額 (対前年比)	増減率
売上高	1,331	1,139	1,255	① 116	10.2%
営業利益	64	25	56	② 31	124.0%
営業利益率	4.8%	2.2%	4.5%	②/① 26.7%	2.3ポイント
経常利益	74	50	65	15	30.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	52	29	40	11	37.9%

連結売上高推移



連結営業利益推移



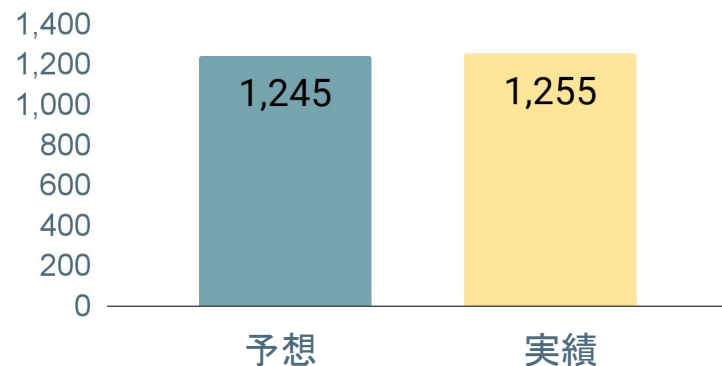
2021年12月期 連結業績概要(対予想比較)

- ◆ 半導体不足、コロナウィルスの影響による減産があるも、円安影響を主因に売上予想を上回る
- ◆ 営業利益はOEM顧客の頻繁な生産変動への対応が困難で、予想数値を下回る

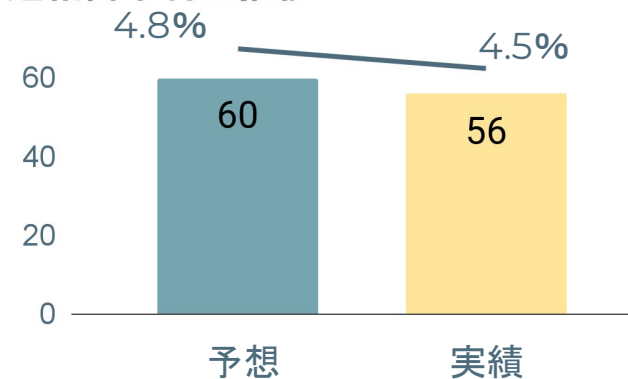
単位:億円/四捨五入

	FY2021 予想* (2021年1~12月) * 2021.11.10.東証発表	FY 2021 (2021年1~12月)	増減額	増減率
売上高	1,245	1,255	① 10	0.8%
営業利益	60	56	② ▲4	▲6.7%
営業利益率	4.8%	4.5%	②/① ▲40.0%	0.3ポイント
経常利益	73	65	▲8	▲11.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	52	40	▲12	▲23.1%

連結売上高推移



連結営業利益推移



2021年第12月期地域別業績(対前年、一昨年比較)

- ◆ 日本国内 半導体不足やコロナウィルスの影響による減産等から、コロナ前の 2019年までは回復していない
- ◆ 海外 アセアンの回復が大きく、2019年度を上回る増収増益を確保

単位:億円/四捨五入

	日本国内 (市光工業)	海外	その他	内部取引消去等	合計
売上高	945 (893) 【1,023】	267 (196) 【246】	96 (100) 【107】	▲53 (▲50) 【▲45】	1,255 (1,139) 【1,331】
営業利益	36 (30) 【52】	23 (2) 【17】	5 (2) 【1】	▲8 (▲10) 【▲6】	56 (25) 【64】
営業 利益率	3.9% (3.4%) 【5.0%】	8.6% (1.0%) 【6.9%】	4.7% (2.0%) 【1.1%】	-	4.5% (2.2%) 【4.8%】

市光工業:単体ベース(伊勢原・藤岡・ミラー・本社)

海外:インドネシア・マレーシア・タイ・中国

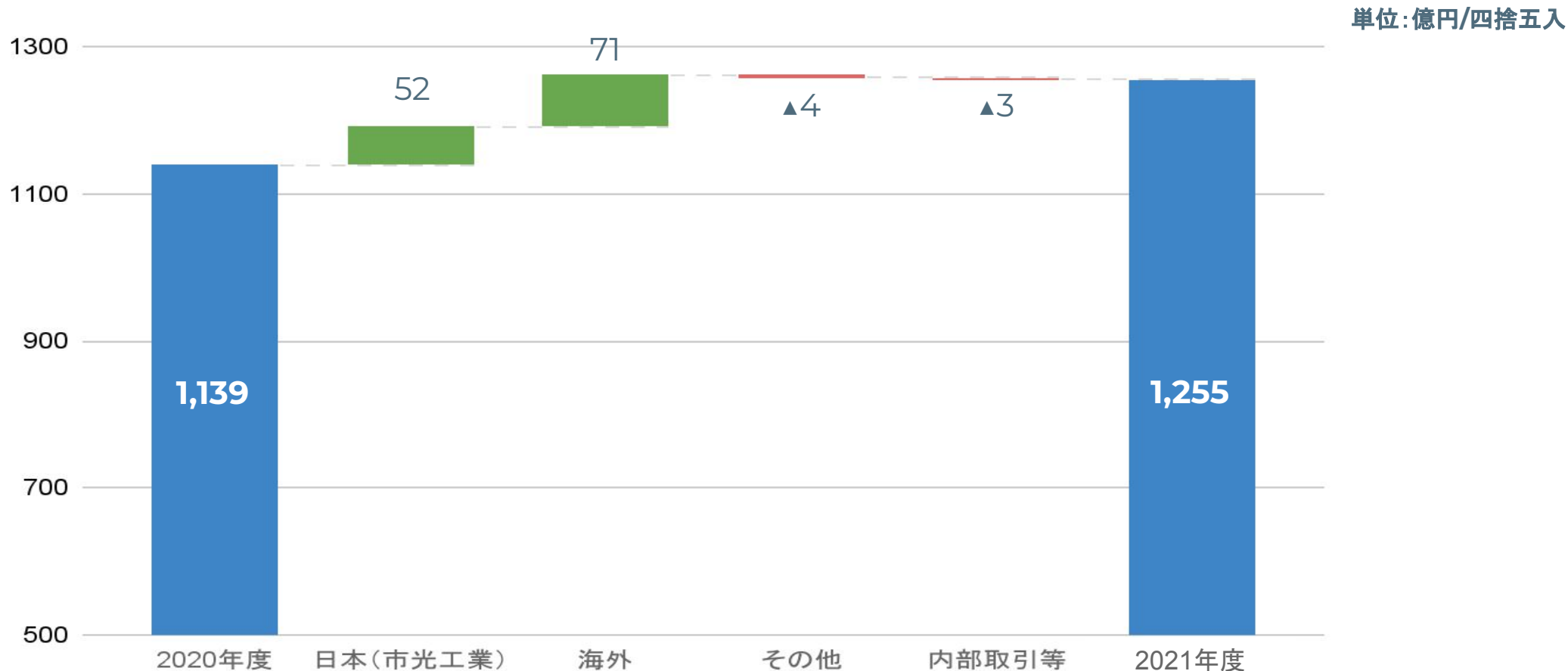
その他:用品事業(PIAA)・バルブ製造販売事業(Life Elex)

():前年同期(2020年1月-12月)の数値、【 】:一昨年同期(2019年1月-12月)の数値

2021年12月期 業績のポイント(対前年比較)

【売上高】

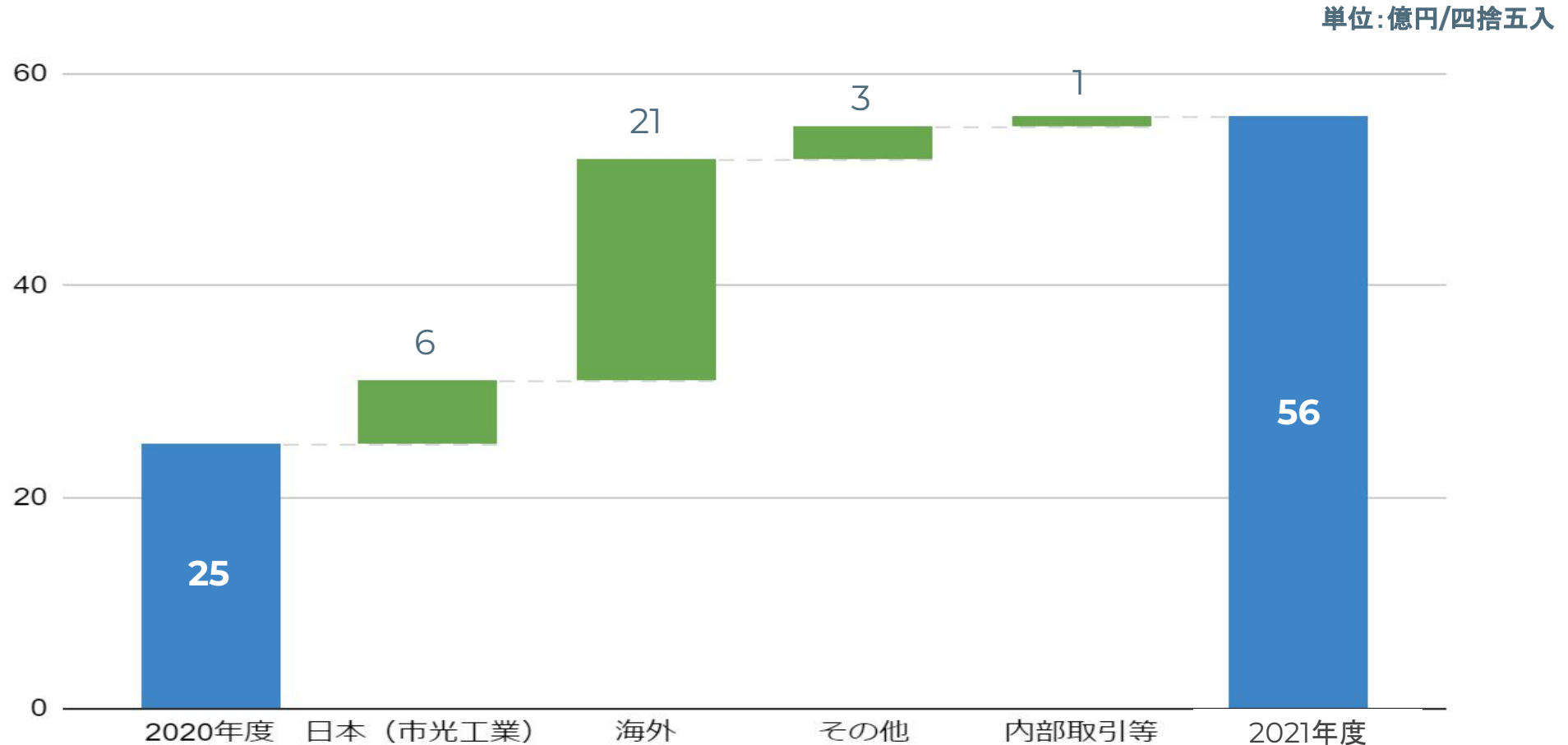
- ◆ 連結: 上期は前年の落ち込みからの反動増、下期は半導体不足や感染拡大再燃により対前年比で減少。通年では前年比116億円(10.2%)の増収にとどまる
- ◆ 海外: インドネシアが対前年比236%と大幅増。タイは半導体不足影響により対前年比5%減収



2021年12月期 業績のポイント(対前年比較)

【営業利益】

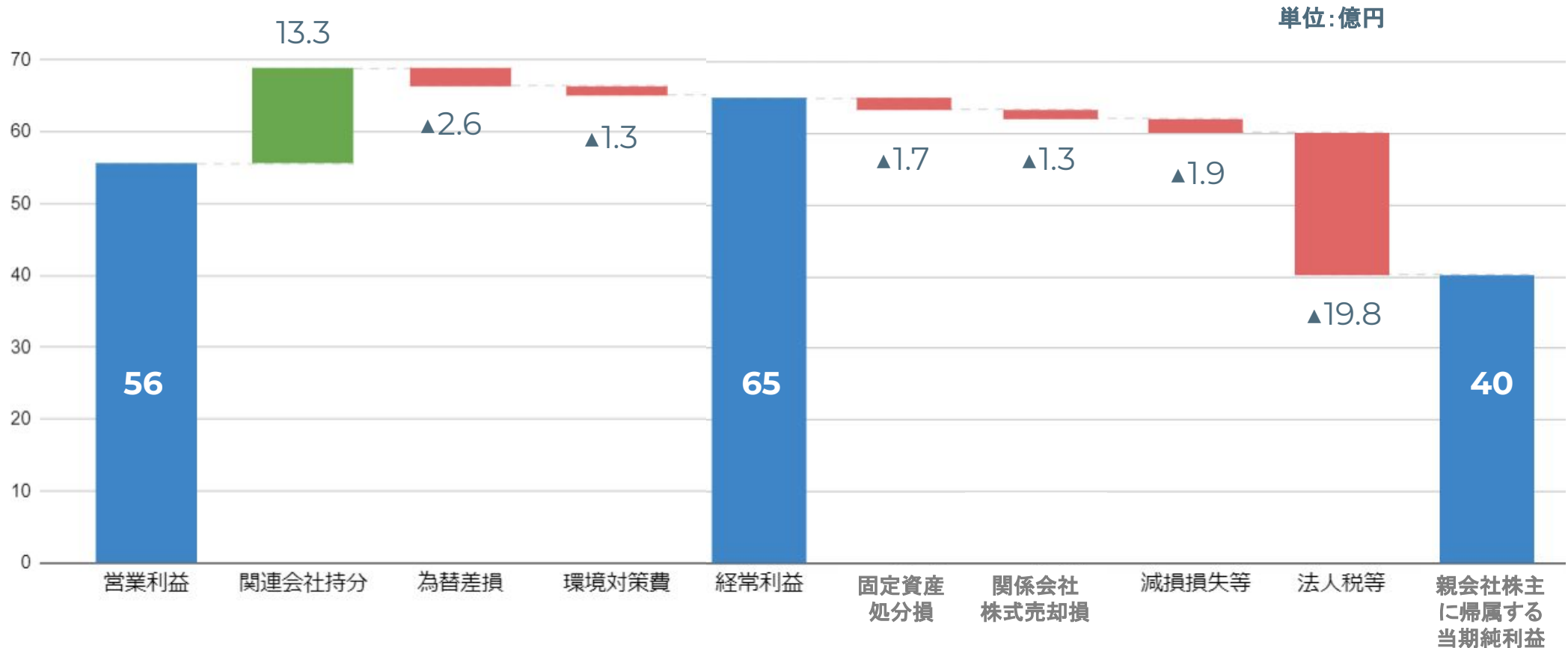
- ◆ 国内:樹脂価格高騰の影響等により対前年比6億円増にとどまる
- ◆ 海外:増加額の7割はインドネシア、2割がタイ



2021年12月期 業績ポイント

【営業利益～経常利益～親会社株主に帰属する当期純利益】

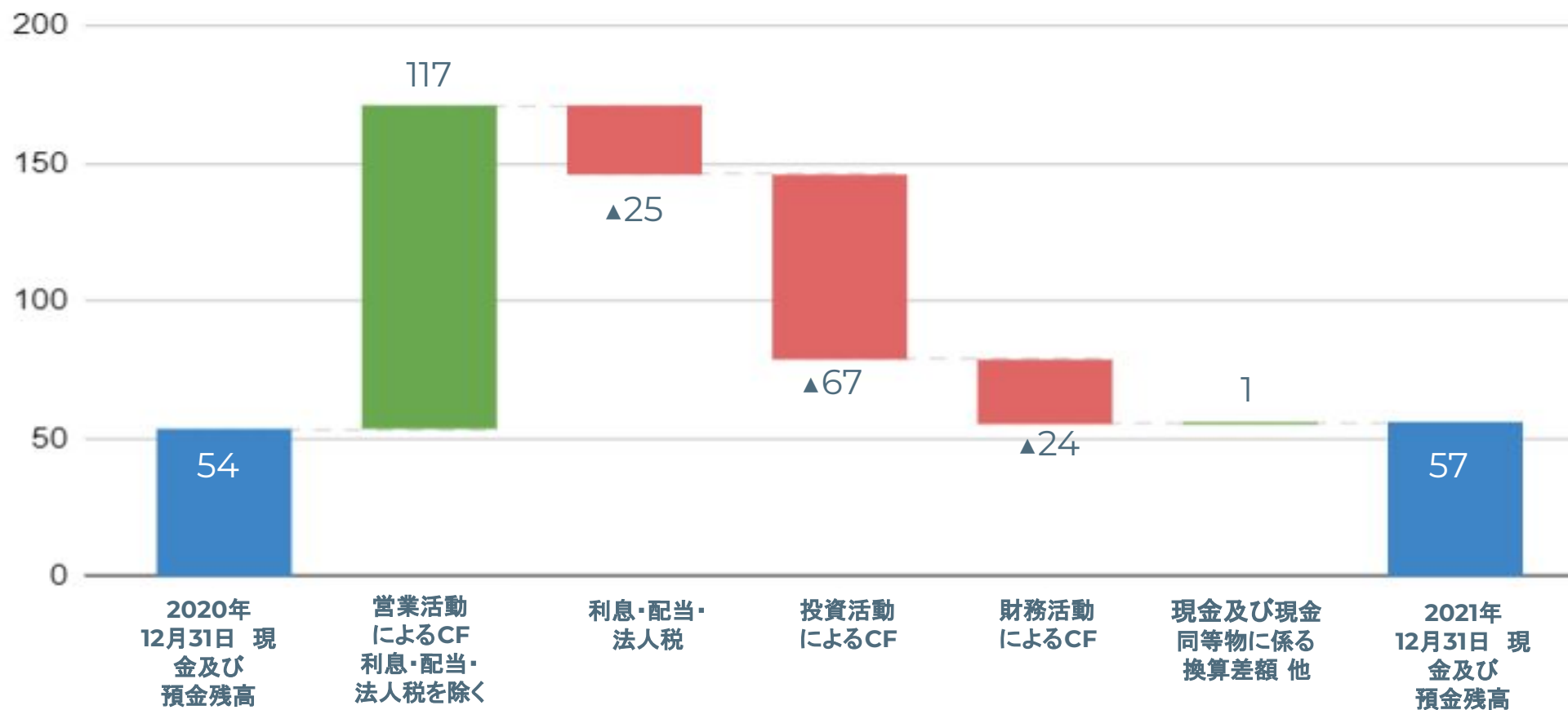
- ◆ 関係会社持分利益: Valeoとの在中國ライティング合併会社からの持分利益 13.3億円と大幅増



2021年12月期 連結キャッシュフロー(前年度末からの増減)

- ◆ 営業CF92億円(利息・配当・法人税含む)により、投資活動 67億円並びに財務活動 24億円(借入返済 20億円)に充当
- ◆ 期末現預金は3億円増加

単位:億円/四捨五入



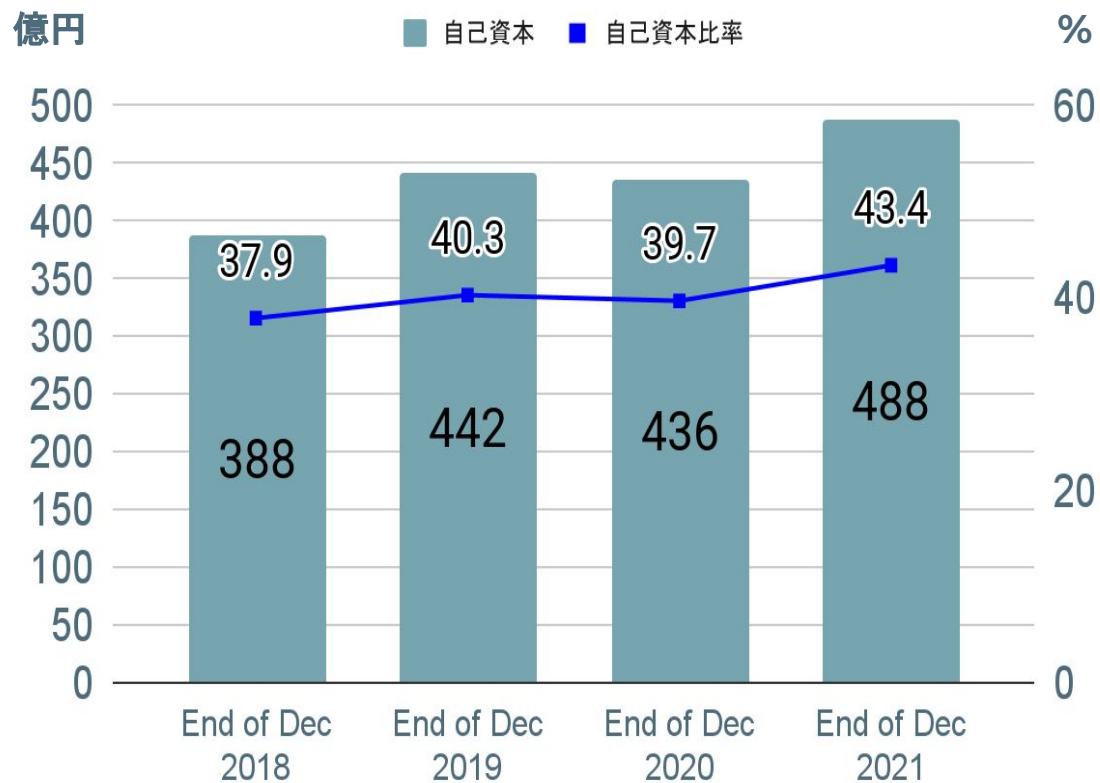
連結貸借対照表(前年度期末比)

単位:億円/四捨五入

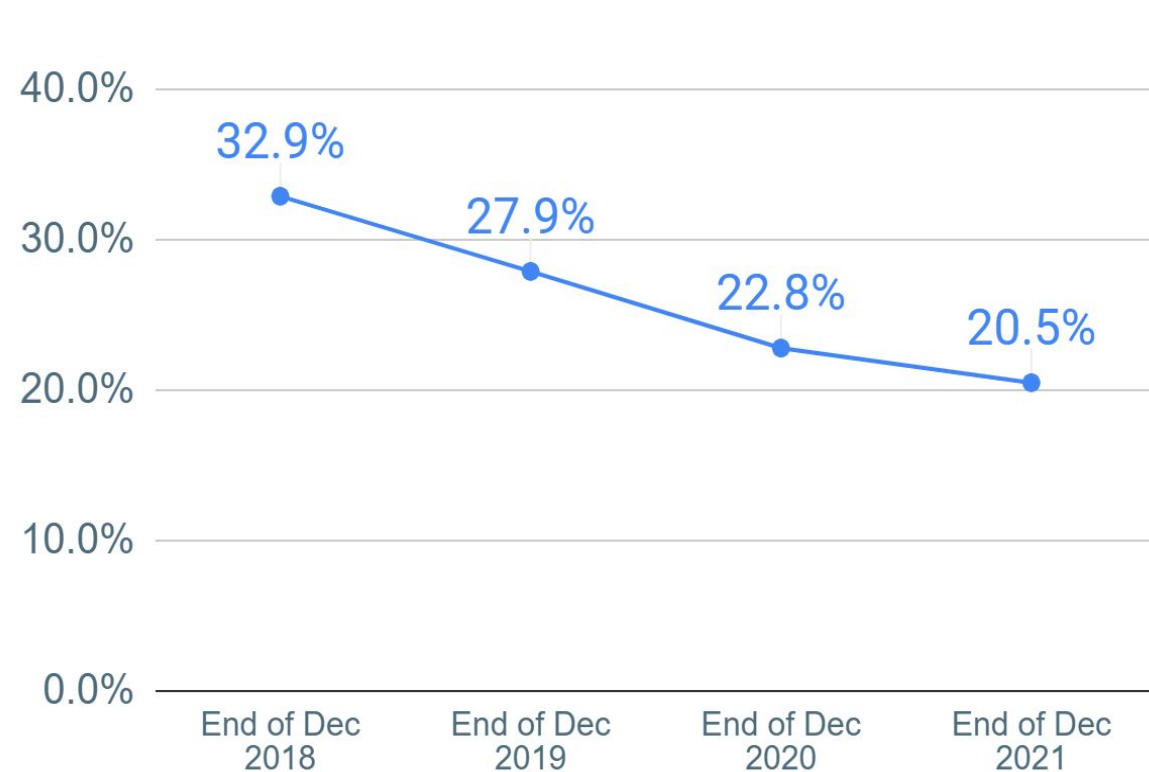
	2020/12	2021/12	増減
現金及び預金	54	57	3
棚卸資産	82	109	27
有形固定資産・無形固定資産	471	463	▲8
その他	489	496	7
資産の部	1,096	1,125	29
有利子負債	99	100	1
その他	552	531	▲21
負債の部	651	631	▲20
株主資本	481	514	33
その他包括利益累計額	▲46	▲26	20
非支配株主持分	10	6	▲4
純資産の部	445	494	49
自己資本比率	39.7%	43.4%	
D/E比率	22.8%	20.5%	

自己資本比率とD/E レシオ

自己資本比率は40%を再び突破



D/E レシオは着実に改善



02 2022年12月期業績見通し (2022年1月～12月)

2022年12月期 連結業績見通し

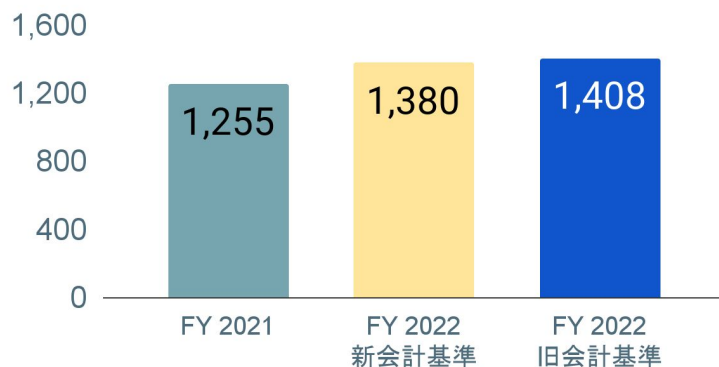
- ◆ 会計基準等の変更*による影響を除外すると、前回 IRミーティング時発表数値(売上額 1,410億円、営業利益 75億円)と同一水準
- ◆ 対前年比では着実な増収増益を見込む

* 会計基準変更: 日本における金型収入・費用に関し、従来は 24ヵ月均等で認識、今期より売上時(SOP時)に一括計上

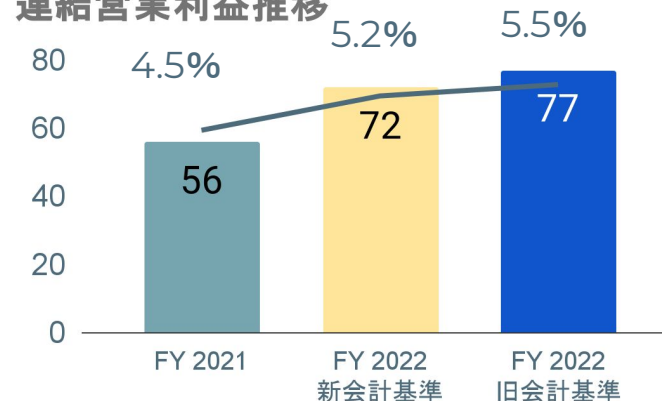
単位: 億円/四捨五入

	FY 2021 (2021年1~12月)	FY 2022 (新会計基準)	FY 2022 (旧会計基準)	増減額 (旧会計と前年対比)	増減率
売上高	1,255	1,380	1,408	① 153	12.2%
営業利益	56	72	77	② 21	37.5%
営業利益率	4.5%	5.2%	5.5%	②/① 13.7%	1.0ポイント
経常利益	65	80	85	20	30.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	40	55	58	18	45.0%

連結売上高推移



連結営業利益推移



2022年12月期 拠点別業績見通し(前年度対比・旧会計基準)

- ◆ 日本国内 売上増加に対応した、研究開発費、減価償却費等の次世代投資への負担増。結果として、営業利益増加は限定的
- ◆ 海外 アセアンの売上増加に対応すべく、生産増に向けた人員増(含、間接人員)等の施策を実施

単位:億円/四捨五入

	日本国内 (市光工業)	海外	その他	内部取引消去等	合計
売上高	1,023 (945)	364 (267)	81 (96)	▲60 (▲53)	1,408 (1,255)
営業利益	41 (36)	33 (23)	5 (5)	▲2 (▲8)	77 (56)
営業 利益率	3.7% (3.9%)	8.9% (8.6%)	6.0% (4.7%)	-	5.5% (4.5%)

市光工業:単体ベース(伊勢原・藤岡・ミラー・本社)

海外:インドネシア・マレーシア・タイ・中国

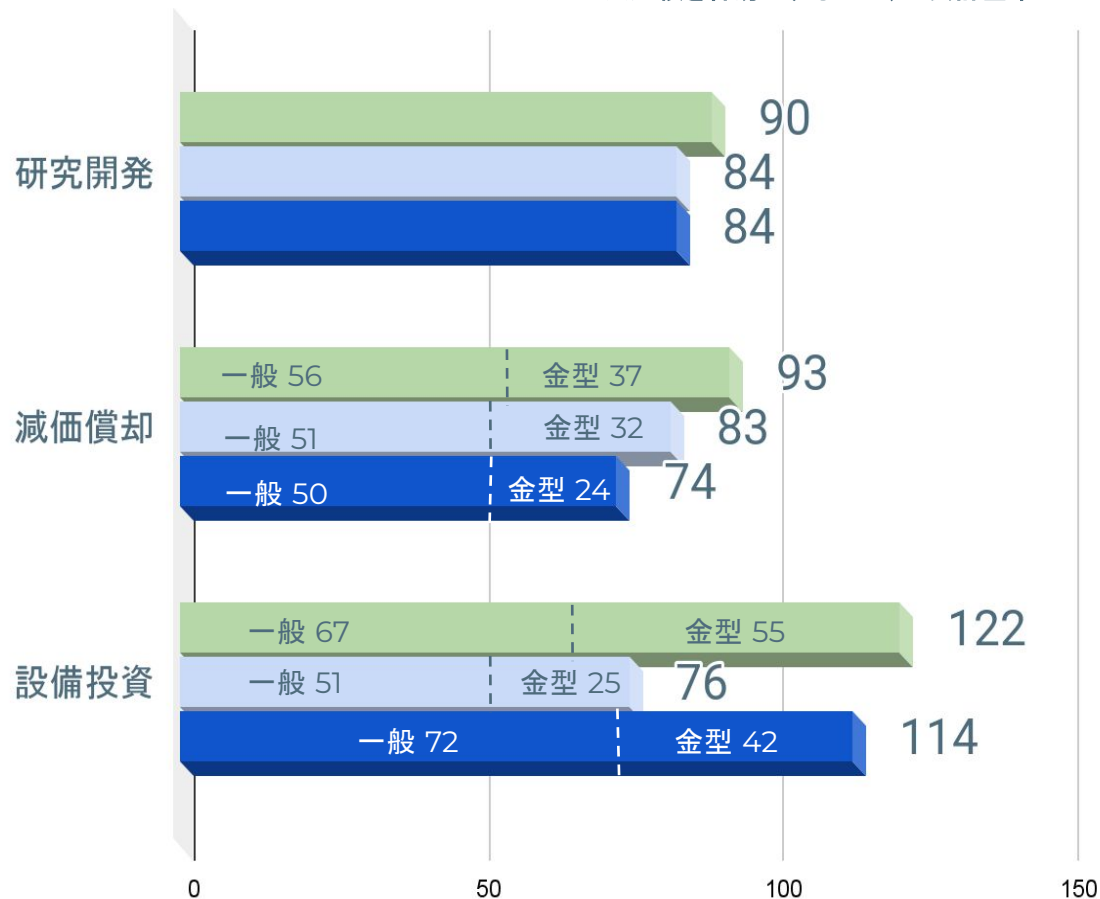
その他:用品事業(PIAA)・バルブ製造販売事業(Life Elex)

():前年同期(2021年1月-12月)の数値

2022年12月期 設備投資・減価償却費・研究開発費 計画

単位：億円/四捨五入

■ 2022 Plan ■ 2021 Actual ■ 2020 Actual
 ※比較を容易にするため、旧会計基準ベースで記載



- ✓ 2020～2021年はコロナ禍対応で一時的に減少
- ✓ 2022年はPJ数増加、製品高付加価値化により増加
 - 中部テクニカルセンターを強化し顧客対応の充実
 - 他方、ヴァレオ・市光のLCC開発拠点の活用で増加額抑制

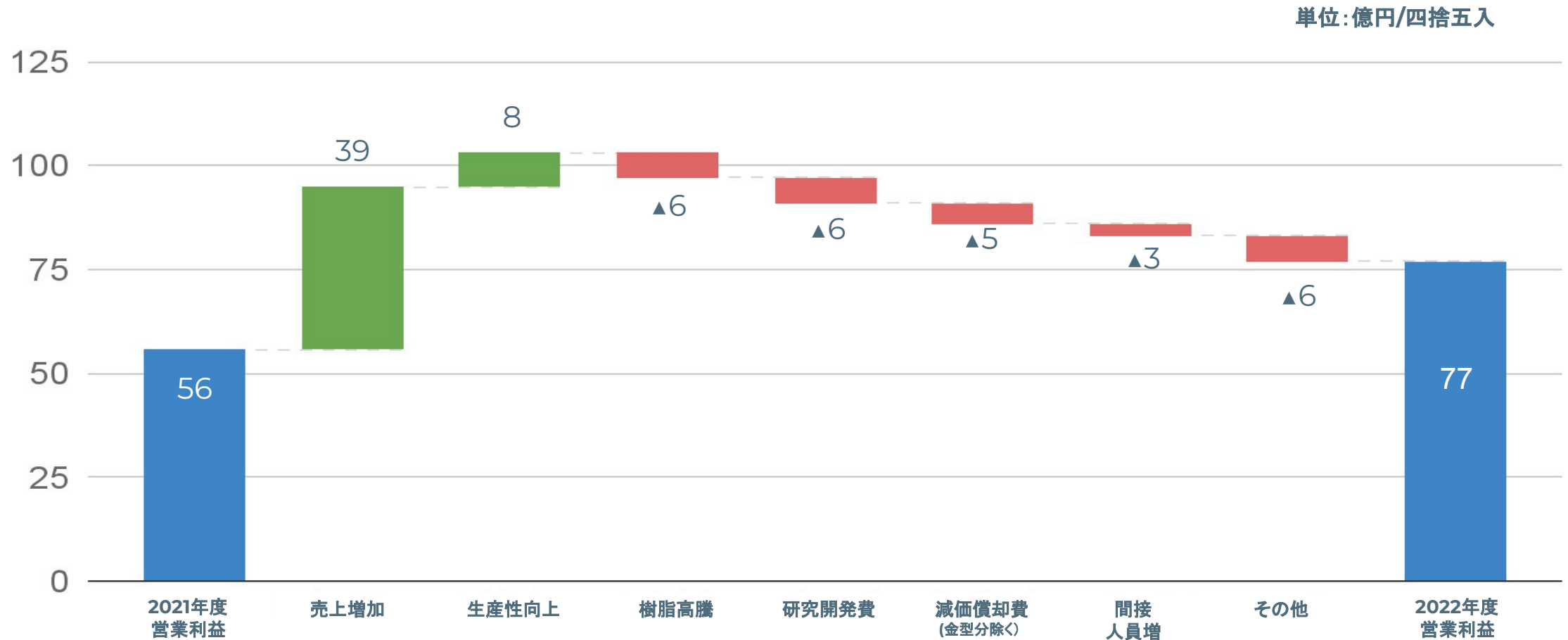
- ✓ 厚木新工場関連投資の継続により一般投資分減価償却額は増加
- ✓ 金型関連減価償却は金型収入の増減と連動。収益への影響は限定的
- ✓ 2022年度計画：新会計基準では56億円

- ✓ 厚木新工場関連投資継続
 - 2021年末 OEMライン移設完了(伊勢原工場⇒厚木工場)
 - 2022年～2023年 ヘッドランプ数量増加により新ライン増設
- ✓ 2022年度計画：新会計基準では67億円

※研究開発費には、試作費、PJ開発コストを含む
 ※設備投資にはリースによる投資も含む

2022年12月期 営業利益のポイント(前年度対比、旧会計基準)

- ◆ 売上増加による増益と生産性向上分から、研究開発費、減価償却費等の次世代投資へ配分
- ◆ 事業規模拡大によりアジアを中心に工場間接および本社間接人員増



4つの中期方針 — 成長戦略

品質改善・コスト低減

- ✓ 徹底したQCDの取組み：不良コストの更なる削減へ（特にASEAN）
- ✓ デザイン・ツー・コスト、 デザイン・ツー・マニュファクチュアビリティ
- ✓ リーン生産・自動化：厚木、藤岡、九州への投資による生産性向上継続

研究開発・イノベーション

- ✓ ソリューションプロバイダー：電子分野の強化（ドライバー、ECU）、システム開発力の強化、これらをイノベーション製品へ結実させる
- ✓ 研究開発コスト・コントロールの継続：ヴァレオとの共同開発、LCC開発拠点の拡大

マザー・ドーター

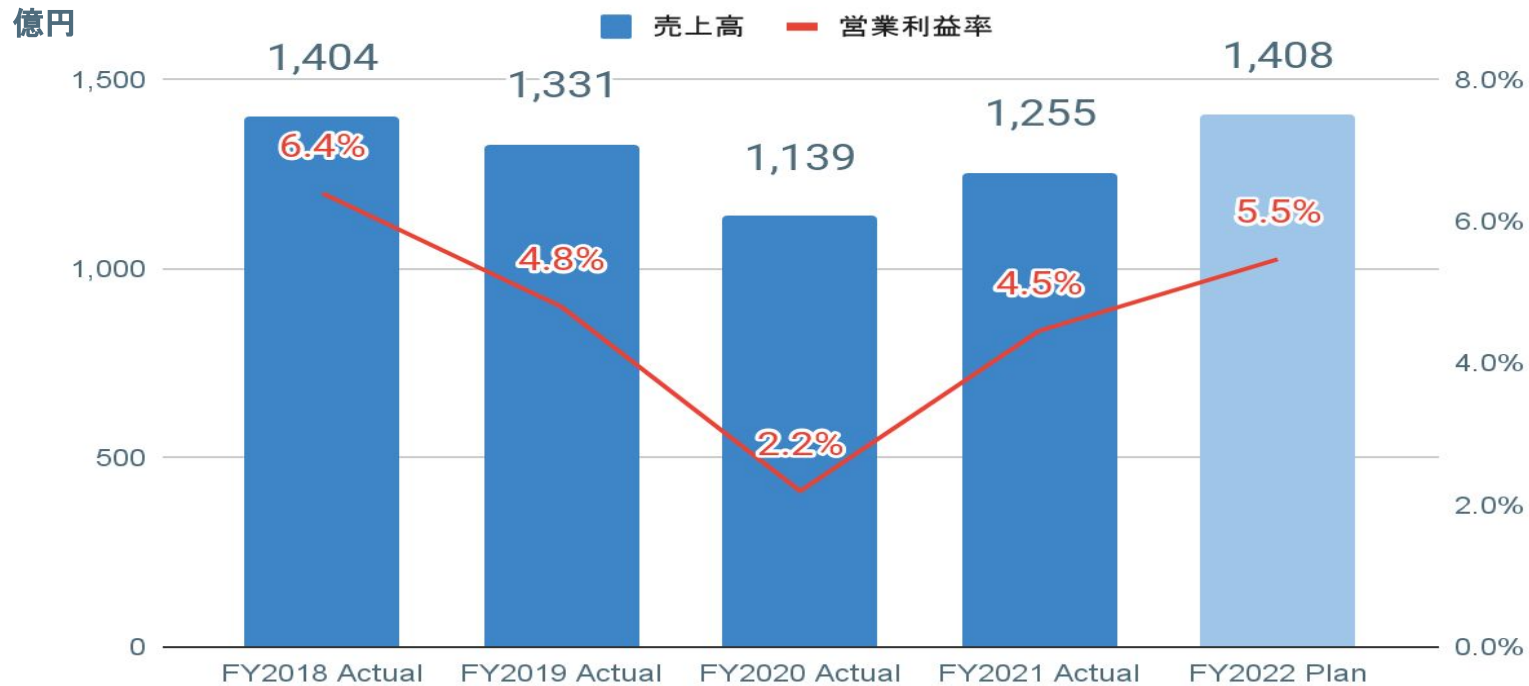
- ✓ ASEAN：市光の中長期的な成長エンジン
- ✓ ASEANの成長支援：マザー・ドーター活動、ローカル人材育成プランによる成長のための基盤確立
- ✓ 将来的な拡大可能性：新工場設立による生産能力の拡大も視野

グローバルモデル受注

- ✓ グローバルモデルの一層の獲得：市光にとっての大きな成長可能性ある分野
- ✓ 市光のイニシアチブ：日系OEMが求めるニーズ（コスト、デザイン、PJマネジメント）を市光がヴァレオグループに積極的に伝授、それを市光が主導

当社中期経営計画達成状況

- ◆ 2021年9月のIRミーティング時に改訂した中期経営計画2022年目標値と旧会計基準による見通しではほぼ同一水準
 - 売上高: 前回IRミーティング時 1,410億円 ⇒ 今回1,408億円
 - 営業利益率: 前回IRミーティング時 5.3% ⇒ 今回5.5%
- ◆ 2023年以降の中期経営計画数値目標については2022年9月の次回IRミーティング時に公表予定*
* ロシアによる世界的な危機が拡大しており保留となる可能性も

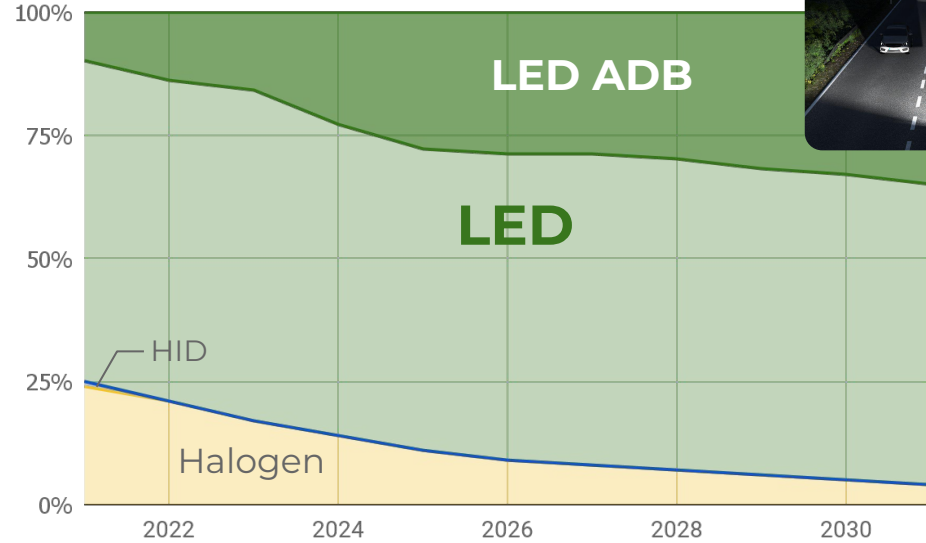


ヘッドランプ / リアランプの使用光源推移予測 (弊社予測)

Japan



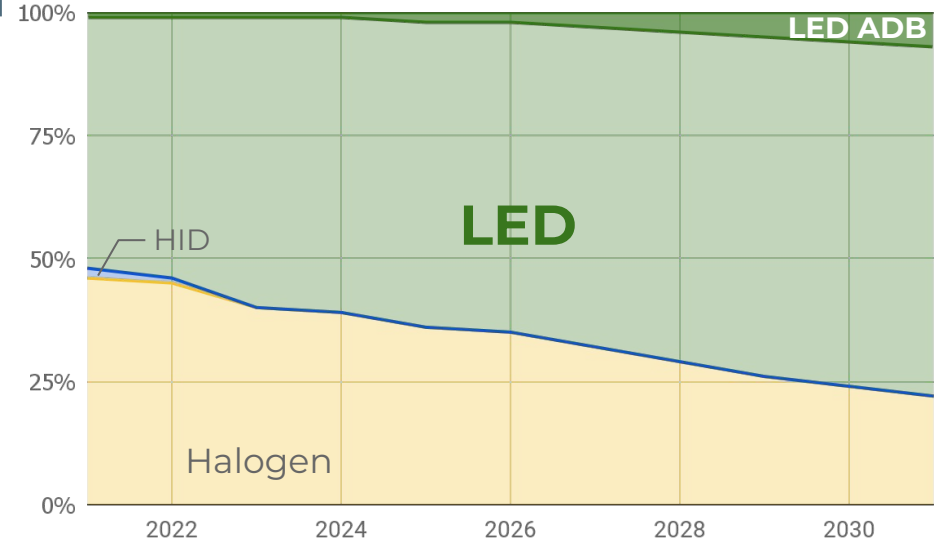
Head Lamp



Asean



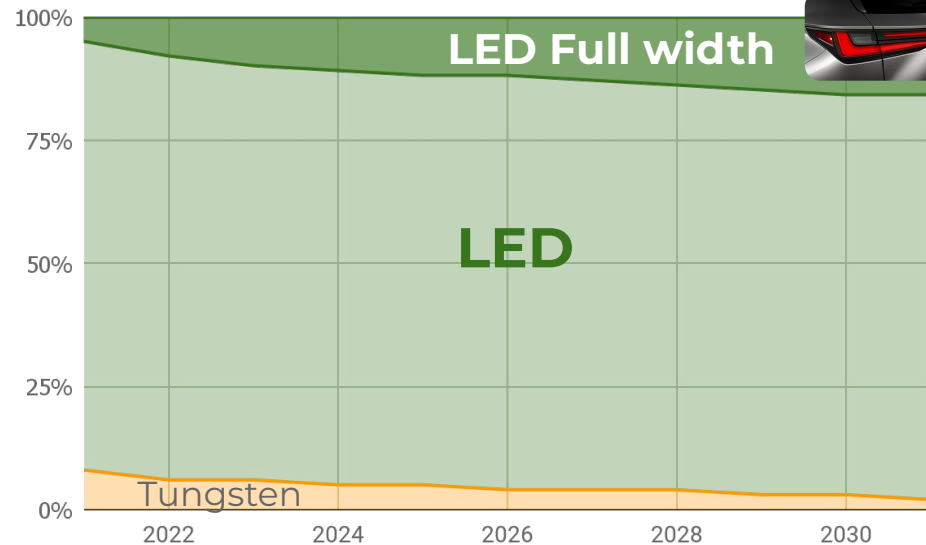
Head Lamp



Japan



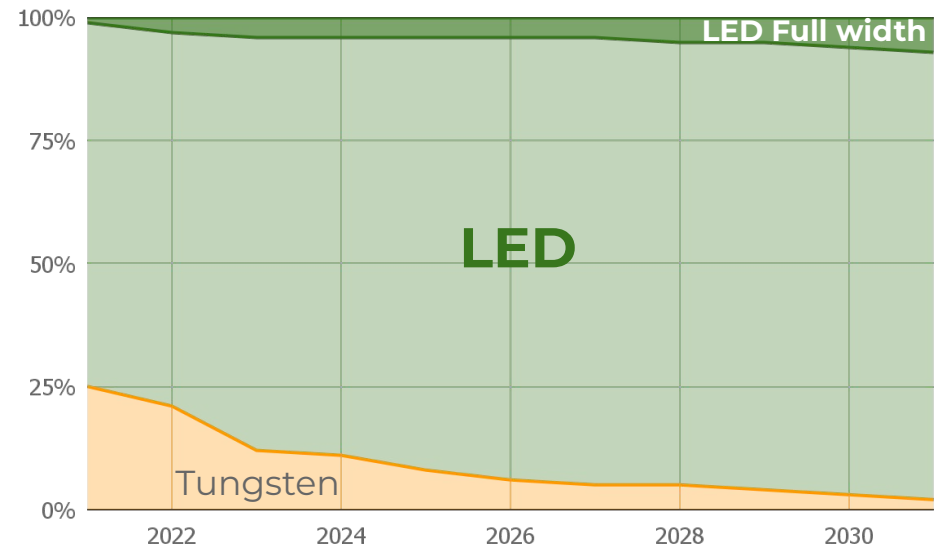
Rear Lamp



Asean

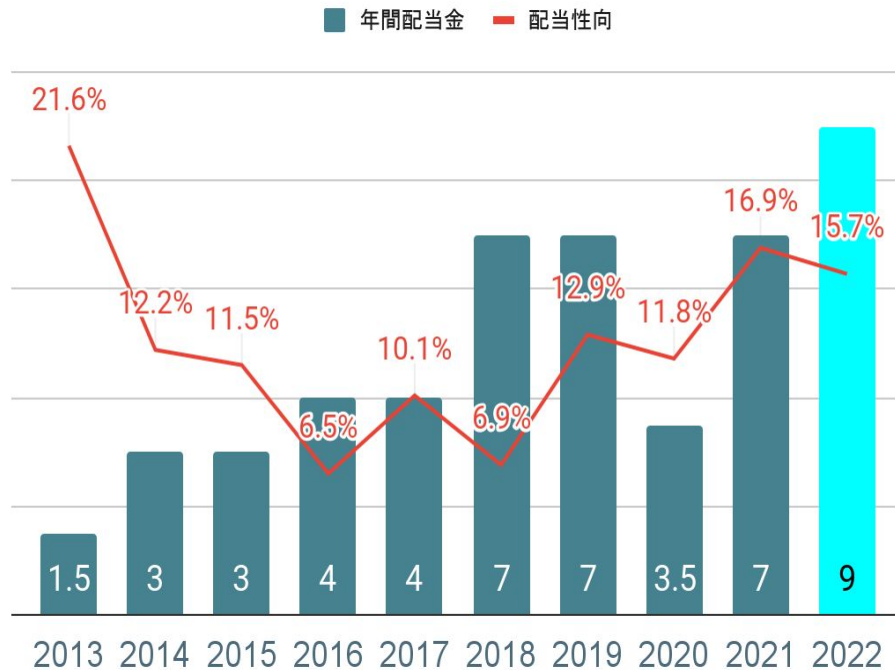


Rear Lamp



配当政策及び配当性向

配当金の推移 (単位:円/1株当り)



基本方針

- (1)内部留保を活用した研究開発及び設備投資により企業価値の向上を図ること
- (2)株主の皆様に対する利益還元の向上を図ってゆくこと
- (1)(2)の双方を達成すること

2021年 期末配当

- ✓ 厳しい競争環境を勝ち抜く競争力を確保するための旺盛な技術開発の資金需要があること
- ✓ 配当性向は前年以上にすることなどを総合的に考慮
- ✓ 年間配当7円に戻す

2022年 12月期の配当予想

- ✓ 増収増益を確保できる見通しであること
- ✓ 配当性向は昨年の水準を総合的に勘案
- ✓ 2円増配の年間配当9円を予定

03 新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書



Prime市場を選択

株価、企業ブランドイメージ、採用への影響、従業員へのモチベーション、信用力等の影響を考慮。
「投資者との建設的な対話」を原動力とし、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現を目指す。

1

上場維持基準の確保 (Prime)

流通株式比率35%確保:

金融機関を中心に、1) 市場売却
や2) 純投資目的に関する追加資
料の提出、を依頼

2

ガバナンス体制の整備*

独立役員比率:20%⇒1/3へ引上

報酬委員会(設置済):独立社外
取締役及び外部有識者で過半数
へ

利益相反監視委員会(設置済):
独立社外取締役をメンバーに加え
る

指名委員会(設置しない)
: Explain項目と致します

3

サステナビリティなどへ の取組

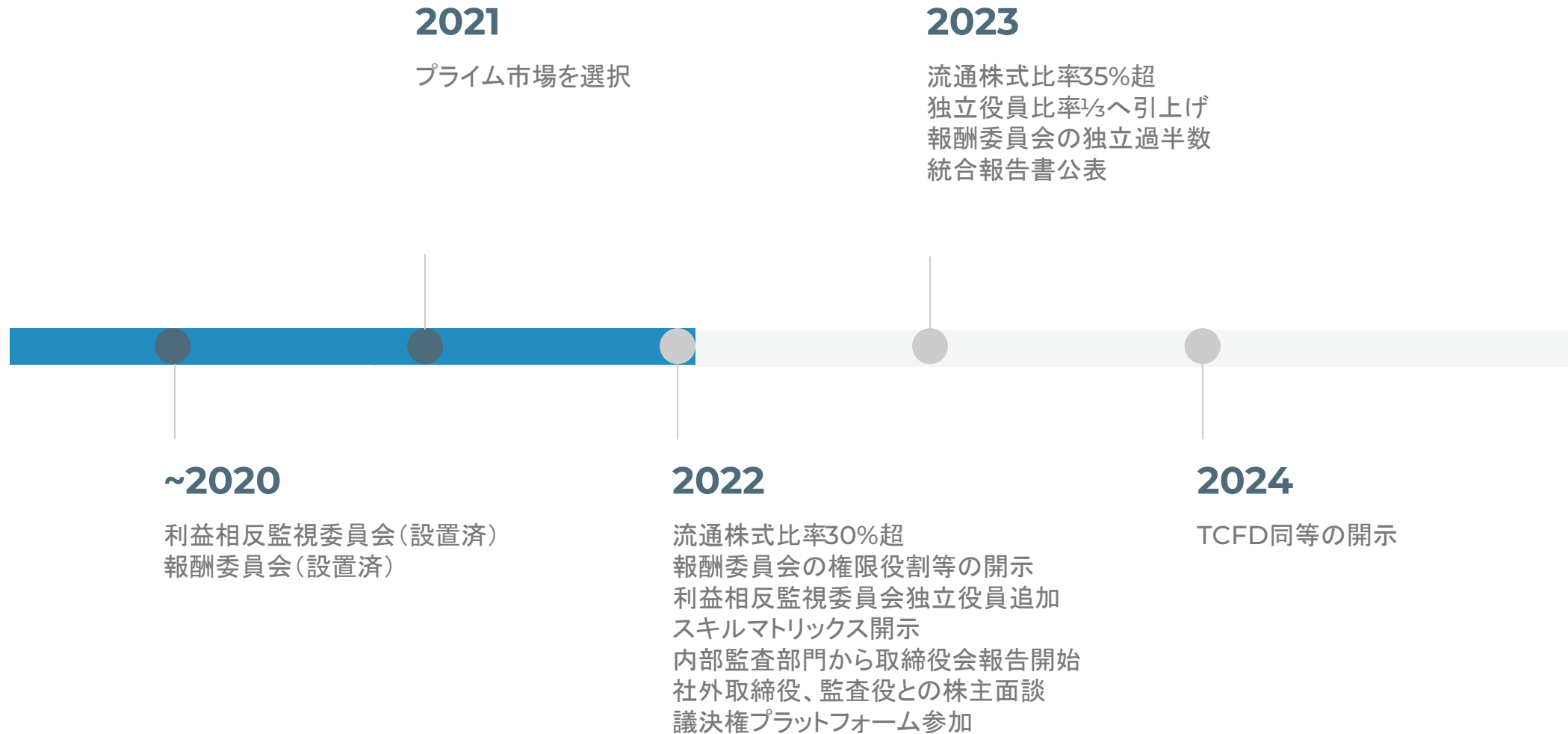
サステナビリティの取組・開示:統
合報告書作成など(TCFD同等の
開示)

取締役会の多様性:スキルマトリッ
クスの開示

など

* (ご参考) 現状においても、独立役員のみで構成される会
議を開催し、独立役員間の情報共有と意見交換による意見形
成を図っております。

スケジュール



予測に関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、市光工業株式会社(以下、当社)が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断で御願ひ致します。資料に記載されている見通しなどに基づいて投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失についても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は当社に帰属します。いかなる理由によっても当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

ICHIKOH
a Valeo company